

〔 特 集 〕

子どもの目を守る

人が受け取る情報のうち、80%は視覚からの情報といわれています。ですから、子どもの視機能をよりよく発達させることは、子どもの将来の可能性を広げることにつながります。

視覚の健全な発達に重要なことは、まず、視覚が発育している乳幼児期に、異常を早期に発見して適切に対応することです。次に、獲得した視機能が損なわれないように、子どもを取り巻く環境に注意することです。そしてこれらを達成するためには、子どもの発達に携わる小児科医、保健師、看護師、そして教育関係者の方々との連携が非常に大切になります。2023年に制定された「こどもの目の日」は、まさにこの思いが込められています。

今回の特集では、発達の時期ごとの健診のポイント、大人と違う子どもの目の疾患や外傷の特徴をご紹介します。さらに、具体的な支援として、近視進行への取り組み、神経発達症児や眼鏡装用を必要とする子どもへのサポート、ロービジョンケアについてご紹介しますので、子どもの目についての知識を深めていただければ幸いです。

(山形大学眼科／林 思音)

